

ニジイロクワガタ・オオクワガタの飼育方法



飼育温度 20～28℃

●ペアリング

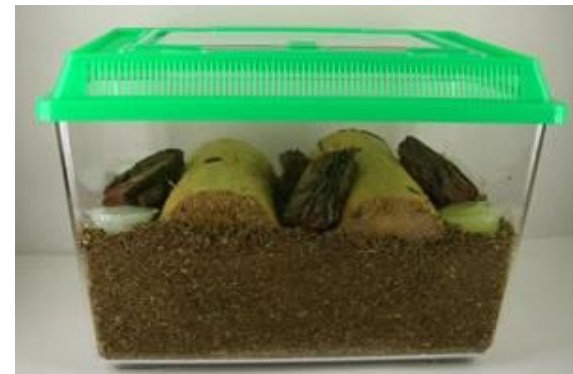
ペアリングには成熟した成虫(羽化後3ヶ月以上経過したもの)を準備します。
※羽化したばかりの成虫は交尾・産卵は出来ません。

- ① 飼育ケースに♀が潜れない程度にくぬぎマットを敷きます。
- ② 転倒防止用に樹皮カーペットや転倒防止小枝等を入れ、高タンパクゼリーをセットします。
- ③ まず♂を投入し、2～3日経過後、♀を投入し1週間～10日間一緒にしておきます。
- ④ ほとんどの場合、交尾が済んでいると思われるので♀だけを取り出し産卵セットに投入します。



●産卵セットの組み方

- ① 産卵材を水に6～8時間つけます。
※産卵材が浮き上がらない様に重しをします。
- ② 水から産卵材を取り出し6～8時間陰干しします。
- ③ 樹皮を剥いで、さらにその下のオレンジ色の部分も削り取ります。
- ④ 飼育ケースにくぬぎ育成マットもしくはクワガタ育成マットProを3～4センチ堅詰めします。
- ⑤ その上に産卵材を置き、昆虫マットで埋めてしまいます。(表面を転倒防止用に出しておいてもかまいません)
- ⑥ ③で剥いだ樹皮を転倒防止用にマットの上にちりばめます。(樹皮が薄い場合やボロボロになった場合は、樹皮カーペットや転倒防止小枝を転倒防止用に並べます)
- ⑦ 昆虫ゼリーをセットして、交尾済みの♀を投入します。



●幼虫の割り出し

- ① 1ヶ月経過後♀を取り出し、さらに2週間～1ヶ月待ちます。(こうする事により最後に産卵した卵もほぼ幼虫として割り出す事が出来ます)
- ② 産卵セットから産卵材を取り出します。
- ③ 産卵材をマイナスドライバー等で慎重に割っていきます。(穴の周辺は幼虫がいる可能性が高いので周りから割っていきます)
- ④ 取り出した幼虫はくぬぎ育成マットもしくはクワガタ育成マットProを入れたブリードカップに1頭ずつ分けて入れて管理します。

※卵が出てきた場合はくぬぎ育成マットもしくはクワガタ育成マットProを入れたブリードカップに入れ、卵が乾燥しないようにマットを軽くかぶせて管理します。

参考動画

<https://youtu.be/Z8I5w4orU5I>



●幼虫の飼育(菌糸瓶)

- ① 割り出し後、体長15mm以上に成長した幼虫は菌糸瓶(バイオ菌床ボトルなど)に投入します。その際、1瓶に対して1頭の幼虫にしてください。
- ② 6～7割ぐらい菌糸瓶に食痕が出る、もしくは幼虫投入後2～3ヶ月経過したら新しい菌糸瓶に交換します。
- ③ 成虫になるまでにDH菌糸瓶を3～4本必要とするので、②の作業を繰り返します。
- ④ 常温の場合は、春から初夏にかけて蛹室を作るので最終の菌糸瓶への交換は、4月までに済ませておきます。

参考動画①_クワガタ幼虫の投入

<https://youtu.be/5UcCYzZVvUQ>



参考動画②_菌糸瓶の交換

<https://youtu.be/6CB74pYXgDA>



ワンポイント

幼虫を大きく育てるには、秋から温度が下がってくるので、19℃キープ位で温度の下がり止めて、冬場もエサ(菌糸)をじっくり食べさせてあげれば大きくなりますよ！！

※15℃以下になると越冬モードになりエサを食べなくなるので注意。

● 蛹の管理

- ① 蛹化スイッチが入るのは20℃以上なので、蛹室を作り出したら温度が下がらないように気をつけます。
- ② 温度変化が少ないところで管理しておけば、蛹になってから1ヶ月～1ヶ月半で羽化します。
- ③ 羽化後1ヶ月くらいすれば体が固まり上に上がってくるので飼育ケースで管理します。(上に上がってこない個体は掘り出して飼育ケースで管理します)

参考動画

https://youtu.be/0_fdHcBN7T8



※参考動画はオオクワガタですが、ニジイロクワガタも同じ方法で問題ないです。

● 成虫の飼育

- ① 飼育ケースにくぬぎ育成マットを入れます。(水分量はマットを軽く握って固まり、指で押すと崩れる程度です)

※活動期の成虫であれば脱臭マットProが衛生的で管理が楽なことからおすすめです。



- ② 昆虫ゼリーの形状にあったエサ皿(のぼり木タイプ・エサ皿タイプ)、転倒防止用の小枝や樹皮、昆虫ゼリーをセットします。
- ③ ハエピタシートを使用することで乾燥を防ぎ、コバエを増やさない衛生的な飼育環境を作ります。

● 越冬のさせ方

- ① 10月中旬を過ぎ、15℃を下回る日が続く季節になると、活動が鈍くなりエサの消費量もだんだん少なくなり、マットの中やくち木・皿木の下にもぐり込んで、じっとしているようになります。このようになったら、越冬の準備をします。
- ② 越冬中は活動しませんので、飼育ケース内には加水したくぬぎ育成マットなどを夏場より多く入れ、その中に加水したくち木を埋め込みます。
- ③ 飼育ケースは、温度変化の少ない、暗い場所に移します(暖房を入れない部屋が良い)
- ④ 飼育ケースの中のマットが乾燥しないように、ハエピタシートを使用し、表面が乾燥してきたら湿り気を与えます。
- ⑤ いつエサを食べに上がってくるか分からないので、昆虫ゼリーを入れておきます。
- ⑥ 飼育ケースはきっちりフタをし、逃げ出さないようにします。

